

## 2年半の追跡調査に基づく

# アサーティブプログラム・アサーティブ入試の現状と課題

～ 多面的な評価に基づく **育成・選抜**の効果とは ～

## 企画趣旨説明

<企画・話題提供>

ベネッセ教育総合研究所 岡田 佐織

## 2. 企画趣旨

### 【企画趣旨（要旨集より）】

高大接続改革では、入学者選抜において「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価することが大学に求められている。追手門学院大学におけるアサーティブプログラム、アサーティブ入試は、この改革を先取りする形で多面的な能力の育成と評価に取り組むものである。一連の取り組みの成果と課題について検証を行い、多面的な評価が大学に何をもたらさしめるのかについて議論する。

要は、こんなことについて議論するセッションです。

「入試で多面的に評価せよ」と言うけれど、何をどう評価したらいいの？

アサーティブ入試は、結局のところどうだったの？

多面的な評価はその手間に見合うだけの効果が本当にあるの？

入学した後はどう育成するの？

自分の大学ではどんなことができそう？

### 3. アサーティブプログラム（面談）では、何が行われているのか？

この3つを、徹底的に問いかける。

キャリア



- どのように生きていきたいか？
- 卒業後に何がしたいか？
- そのために、大学で何がしたいか？

学習



- 大学で何を学びたいのか？ それはなぜか？

納得

- なぜそれを追手門学院大学で学びたいのか？

この3つが、相互にしっかりと結びついているかどうかを確認する。

ただし、問いかけても、往々にして出てこない場合がある。  
そこをどう引き出すかが、「育成型入試」であるこの取り組みの肝。

#### 4. アサーティブ面談で、高校生に問いかけていること

	振り返り	見通し、動機づけ	遂行 ※
キャリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分はどんな人間だと思うか？</li> <li>どんなことに取り組んできた？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように生きていきたいか？</li> <li>卒業後に何がしたいか？</li> <li>そのために、大学で何がしたいか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路選択や目標実現に向けて、今取り組んでいることは何か？</li> <li>これから志望校を決定するまでの間に（次の面談までに）何をする？</li> </ul>
学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校までの学びや様々な活動を通して、どんなことを得てきたのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学で何を学びたいのか？それはなぜか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校で何に取り組んでいるのか？なぜそれに取り組んでいるのか？</li> <li>どのように学習に取り組んでいるのか？（自習時間、読書、予習・復習は？）</li> </ul>
納得		<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ追手門学院大学で学びたいのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のことを正しく理解できているか？ （次の面談までに、他大学も比較しながら調べさせる）</li> </ul>

↑  
過去にさかのぼって話を聞きながら、「思い」を引き出していく

↑  
その「思い」は本物なのか、時にはゆさぶり、実現に向けての行動が伴っているかを確認する。次にすべきことを考えるための視野を広げる。

↑  
対話を通して行き来しながら見通しと動機づけを確かなものにしていく

## 5. 本日の構成

①

アサーティブ入試の目的  
～志願者の何を見ているのか？

(志村 知美)

追手門学院大学  
アサーティブ研究センター 研究員  
教務部 アサーティブ課長

④

ポートフォリオ、学生カルテの  
システム構築に向けて

(福島 一政)

追手門学院大学 特任副学長

③

入学後の教育改革を  
どう進めるか？

(原田 章)

追手門学院大学 副学長

②

アサーティブ入試の  
成果と課題

(木村 治生)

ベネッセ教育総合研究所

⑤

教育効果の高い面談を  
実現するための  
アセスメントデータと  
学生カルテの活用

(岡田 佐織)

ベネッセ教育総合研究所

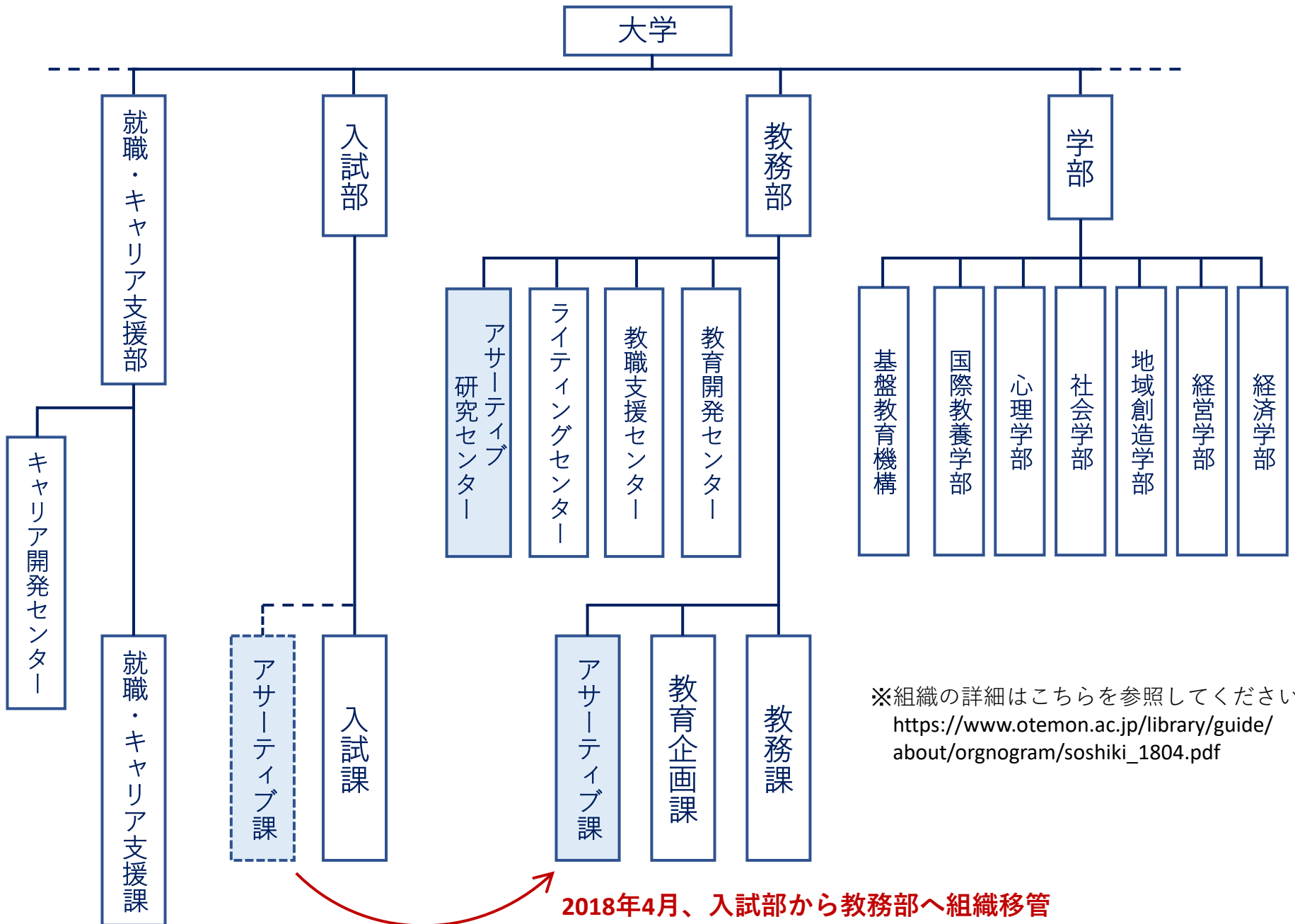
⑥

総括：キャリア形成・開発の視点を  
入試という節目にどう仕込むのか

(池田 輝政)

追手門学院大学 学長補佐  
アサーティブ研究センター長

## 6. 組織上の位置づけ



※組織の詳細はこちらを参照してください。  
[https://www.otemon.ac.jp/library/guide/about/orgnogram/soshiki\\_1804.pdf](https://www.otemon.ac.jp/library/guide/about/orgnogram/soshiki_1804.pdf)

## 7. 共同研究について

本セッションは、追手門学院大学 アサーティブ研究センターとベネッセ教育総合研究所による、3年間にわたる共同研究の成果に基づくものです。

本共同研究では、

- ① アサーティブプログラム・アサーティブ入試の成果検証
- ② 入学前後の学生の学びと成長を追跡する総合的なアセスメント手法の開発
- ③ 成長要因のモデル開発

を目指して、

- ・ アセスメントテストの全学実施とデータ分析
- ・ インタビュー調査の実施
- ・ 面談ツールの開発

などに取り組んできました。

これまでの取り組み、成果等の詳細は、下記をご参照ください。

- 「学びと成長のプロセス」を可視化する共同研究

2018年3月、2017年3月 大学教育研究フォーラム 発表内容

<https://berd.benesse.jp/feature/focus/17-report/>

- 追手門学院大学 共同研究報告書

<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5261>



## 8. 本日のプログラム

	タイトル・内容	発表者	時間	時刻
1	企画趣旨説明	岡田 佐織	10分	15:15～15:25
2	アサーティブ入試の目的	志村 知美	15分	15:25～15:40
3	アサーティブ入試の成果と課題 －3時点のパネルデータ分析から－	木村 治生	25分	15:40～16:05
4	質疑&ミニディスカッション		10分	16:05～16:15
5	入学後の教育改革をどう進めるか	原田 章	15分	16:15～16:30
6	ポートフォリオ、学生カルテの システム構築に向けて	福島 一政	15分	16:30～16:45
7	質疑&ミニディスカッション		10分	16:45～16:55
8	教育効果の高い面談を実現するための アセスメントデータと学生カルテの活用	岡田 佐織	15分	16:55～17:10
9	総括として キャリア形成・開発の視点を 入試という節目にどう仕込むのか	池田 輝政	15分	17:10～17:25
10	質疑&全体討議		15分	17:25～17:40
11	コメントシート記入		5分	17:40～17:45